

# 女性教職員活躍推進だより

第3号 令和4年8月4日 教育庁職員課

★★ 女性管理職ロールモデル紹介 ★★  
福島県教育庁特別支援教育課主幹兼副課長

齋藤 成子さん



職員課主幹兼副課長高橋敏幸が話を伺いました。

Q:これまでの経歴を教えてください。

特別支援学校教諭として、主に聴覚障がい教育、病弱教育を経験してきました。教諭時代には、人事交流で高等学校に4年間勤務する経験もさせていただきました。人事交流から聾学校へ戻り、巡回相談員や特別支援教育コーディネーター等、主に教育相談を担当していました。その後、教頭相当職として、養護教育センター指導主事として1年間、主任指導主事として2年間、特別支援教育課主任指導主事として2年間勤務後、視覚支援学校教頭として2年間、あぶくま支援学校副校長として1年間勤務しました。

Q:教頭昇任試験を受けるきっかけは？



聾学校で、当時の校長先生や教頭先生から勧められました。当時、聾教育を長年実践されてきた先生方の退職や転勤が多くあったこともあり、専門性の継承について教諭としての責任と不安を感じていました。

Q:管理職としてのロールモデルとなる方はいらっしゃいましたか？

特別支援学校では、女性管理職の配置校は多く、私自身も教諭時代、5名の女性教頭先生と勤務させていただきました。どの教頭先生も仕事のことだけではなく、先生方の体調のことや家族のことなど私的なことについても親身になって相談に乗ってくださる方ばかりでした。女性の教頭先生方の様々な体験談は、とても参考になりました。身近にモデルとなる方々がいらっしゃったので、とても心強かったです。

また、特別支援学校は、女性教員が多いことから、さらに女性管理職の割合が増えるべきなのではないかと考え、家族と相談し、昇任試験を受験することにしました。

Q:ご家族の協力はどのような場面でありましたか？

昇任試験の受験について、夫に相談しました。子育て中であったため、迷いましたが、仕事に対する考え方は常に共有していたということもあり最後に背中を押したのは夫でした。特に教頭時代は、二人とも朝型なので、早く起きた方がお弁当を作るなど、家事の分担は特にせずに、やれる人がやるという方法を取っていました。

## Q: 教頭のやりがいとは？

教頭には、児童生徒や教員の様々な事について情報が集まります。特別支援学校の場合、教育相談に来ている幼児から高等部の生徒まで、関わっている子どもたちの年齢の幅が広いので、児童生徒一人一人の発達段階における課題を知り、その解決方法を先生方と一緒に考えたり、指導方法について議論したりすることで子どもたちの成長と一緒に喜ぶことができることは、とてもやりがいがあります。また、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じるため、学校をより良く改善していくための方策を先生方と一緒に考え、校長に提案し、実現できた喜びを感じることができます。

## Q: 逆に大変だったことは？

大変だったことというよりは、学んだことになりましたが、視覚障がい教育が初めてであったため、教頭というよりは、教員として視覚障がい教育を知ることから始めました。視覚障がいのある教員の方も勤務していますので、校内における教職員への合理的配慮の提供について考える機会となりました。

## Q: 最後に、女性教職員の皆さんにひとこと。

女性の皆さんが教頭になることで不安になる理由の一つは、家庭との両立だと思います。令和5年度から、昇任後の管理職の配置にあたって、特別な事情がある場合には、可能な範囲で勤務地等について配慮することとなったことから、女性にとっては受験の壁がかなり低くなったのではないかと思います。

また、教頭昇任試験の受験にあたっては、家族との話し合いが重要です。女性が管理職として力を発揮するためには、家族の理解が必要だからです。男性の皆さんの理解があれば、協力し合うことができます。女性管理職が求められていますので、女性教職員の皆さんのチャレンジを応援しています。

齋藤成子さん、

貴重なお話、大変ありがとうございました！

次回は少し先になりますが、現場の校長先生から話を伺う予定です。

今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えていきたいと思っています。よろしくお願いします。



## ～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で15%、校長で13%とすることを目標としています。